

サクソニア・ファミリー

Cal.L086.4
サクソニア・オートマティック・ジュエリー



直径30.4mm、厚さ3.7mm。部品点数209。31石。毎時2万1600振動。パワーリザーブ約72時間。自動巻き。自社製ヒゲゼンマイ。衝撃吸収型サスペンション方式センターローター。時、分、ストップセコンド機能付きスモールセコンド。

2012年

Cal.L941.1
サクソニア



直径25.6mm、厚さ3.2mm。部品点数164。21石。毎時2万1600振動。パワーリザーブ約45時間。3/4プレート。時、分、ストップセコンド機能付きスモールセコンド。

2011年

Cal.L086.1
サクソニア・オートマティック



直径30.4mm、厚さ3.7mm。部品点数209。31石。毎時2万1600振動。パワーリザーブ約72時間。自動巻き。3/4プレート。自社製ヒゲゼンマイ。衝撃吸収型サスペンション方式センターローター。時、分、ストップセコンド機能付きスモールセコンド。

2011年

Cal.L951.6
ダトグラフUP/DOWN



直径30.6mm、厚さ7.9mm。部品点数451。46石。毎時1万8000振動。パワーリザーブ約60時間。自社製ヒゲゼンマイ。フライバック、プレジジョン・ジャンピング・ミニッツカウンター搭載クロノグラフ。時、分、ストップセコンド機能付きスモールセコンド。大型日付表示。パワーリザーブAUF/AB表示。

2012年

Cal.L085.1
サクソニア・アニュアルカレンダー



直径30.4mm、厚さ5.4mm。部品点数476。43石。毎時2万1600振動。パワーリザーブ約46時間。自動巻き。3/4プレート。SAX-O-MAT両方向巻き式3/4スケールローター。時・分・スモールセコンド。ゼロリセット機構による秒針位置合わせ機能。年次カレンダー（大型日付表示、曜日、月表示）。ムーンフェイス。

2010年

Cal.L952.1
ダトグラフ・パーベチュアル
(ムーブメント文字整側)



直径32.0mm、厚さ8.0mm。部品点数556。45石。毎時1万8000振動。パワーリザーブ約36時間。自社製ヒゲゼンマイ。フライバック、プレジジョン・ジャンピング・ミニッツカウンター搭載クロノグラフ。永久カレンダー（大型日付表示、曜日、月、閏年表示）。ムーンフェイス。デイ・ナイト表示。時、分、ストップセコンド機能付きスモールセコンド。

2006年

Cal.L086.2
サクソニア・デュアルタイム



直径30.4mm、厚さ4.6mm。部品点数268。31石。毎時2万1600振動。パワーリザーブ約72時間。自動巻き。3/4プレート。自社製ヒゲゼンマイ。衝撃吸収型サスペンション方式センターローター。時、分、ストップセコンド機能付きスモールセコンド。第2時間帯表示。デイ・ナイト表示兼用24時間表示。

2011年

Cal.L001.1
ダブルスプリット



直径30.6mm、厚さ9.45mm。部品点数465。40石。毎時2万1600振動。パワーリザーブ約38時間。自社製ヒゲゼンマイ。フライバック、プレジジョン・ジャンピング・ミニッツカウンター搭載ダブルラトラパンテ・クロノグラフ。アイソレーター機構。時、分、ストップセコンド機能付きスモールセコンド。パワーリザーブAUF/AB表示。

2004年

Cal.L093.1
サクソニア・フラッハ



直径28.0mm、厚さ2.9mm。部品点数167。21石。毎時2万1600振動。パワーリザーブ約72時間。3/4プレート。自社製ヒゲゼンマイ。時、分表示。

2011年

現行ムーブメント一覧

1994年に発表された「ランゲ1」、「サクソニア」、「アーケード」、そして「ランゲ1・トゥールビヨン・ブルー・ル・メリット」に始まり、2012年までに43種類のムーブメントが開発されている。ここでは現時点で搭載されている25種類のムーブメントを、製品ファミリー別にとりあげた。'03年にスタートしたヒゲゼンマイの自社製造も順調に発展し、'04年発表の「ダブルスプリット」を最初に、現行モデルでは18キャリバーが、自社製ヒゲゼンマイを装備している。一覧からも分かるように、角型ムーブメントを搭載する「アーケード」と「カバレット」の製造は現在では行われていない。

ランゲ1・ファミリー

Cal.L031.1
ランゲ1・タイムゾーン



直径34.1mm、厚さ6.65mm。部品点数417。54石。毎時2万1600振動。パワーリザーブ約72時間。3/4プレート。二重香箱。時、分、ストップセコンド機能付きスモールセコンド。大型日付表示。パワーリザーブAUF/AB表示。ホームタイム（大型日付表示が連動）。24都市リング付き第2時間帯表示。ホームタイムと第2時間帯それぞれにデイ・ナイト表示。

2005年

Cal.L901.0
ランゲ1



直径30.4mm、厚さ5.9mm。部品点数365。53石。毎時2万1600振動。パワーリザーブ約72時間。3/4プレート。二重香箱。時、分、ストップセコンド機能付きスモールセコンド。大型日付表示。パワーリザーブAUF/AB表示。

1994年

Cal.L095.1
グランド・ランゲ1



直径34.1mm、厚さ4.7mm。部品点数397。42石。毎時2万1600振動。パワーリザーブ約72時間。3/4プレート。自社製ヒゲゼンマイ。時、分、ストップセコンド機能付きスモールセコンド。大型日付表示。パワーリザーブAUF/AB表示。

2012年

Cal.L901.5
ランゲ1・ムーンフェイス
(ムーブメント文字整側)



直径30.4mm、厚さ5.9mm。部品点数398。54石。毎時2万1600振動。パワーリザーブ約72時間。3/4プレート。二重香箱。時、分、ストップセコンド機能付きスモールセコンド。大型日付表示。パワーリザーブAUF/AB表示。122年に1日の誤差のムーンフェイス表示。

2010年

Cal.L082.1
ランゲ1・トゥールビヨン
パーベチュアルカレンダー



直径34.1mm、厚さ7.8mm。部品点数624。68石（+1ダイヤモンド）。毎時2万1600振動。パワーリザーブ約50時間。自動巻き。自社製ヒゲゼンマイ。衝撃吸収型サスペンション方式センターローター。時、分、ストップセコンド機能付きトゥールビヨン。スモールセコンド。永久カレンダー（大型日付表示、レトログランド式曜日表示、月表示リング、ムーンフェイス、閏年表示）。デイ・ナイト表示。

2012年

Cal.L021.1
ランゲ1・デイマティック



直径31.6mm、厚さ6.1mm。部品点数426。67石。毎時2万1600振動。パワーリザーブ約50時間。自動巻き。自社製ヒゲゼンマイ。衝撃吸収型サスペンション方式センターローター。時、分、ストップセコンド機能付きスモールセコンド。大型日付表示。パワーリザーブAUF/AB表示。レトログランド式曜日表示。

2010年

成長の証

「ランゲ1・ファミリー」の発展



ランゲ1
Cal.L901.0(1994年)



ランゲ1・ムーンフェイズ
Cal.L901.5(2002年)



ランゲ1・タイムゾーン
Cal.L031.1(2005年)



ランゲ1・デイマティック
Cal.L021.1(2010年)



グランド・ランゲ1
Cal.L095.1(2012年)



ランゲ1・トゥールビヨン
パーペチュアルカレンダー
Cal.L082.1(2012年)

「ランゲ1」は1994年に発表され今日まで変わることなく続く唯一のモデルだ。完璧な調和をもって生まれ、復興後のAランゲ&ゾーネを象徴する時計であり、このモデルから派生した5モデルを含む全6型が現在ではラインアップされる。122年に1日の誤差のムーンフェイズを備えた「ランゲ1・ムーンフェイズ」

ズ」、都市リングを文字盤周囲におき、ホームタイムと第2時間帯表示を備える「ランゲ1・タイムゾーン」、レトロクラード式曜日表示を9時位置側に置き、セクターローター・タイプの自動巻きムーブメントを搭載する「ランゲ1・デイマティック」は2002年から10年に発表された。これらに今年、リニューアルした「グ

ランド・ランゲ1」と新作の「ランゲ1・トゥールビヨン・パーペチュアルカレンダー」が加わった。この2モデルに搭載されるムーブメントは自社製ヒゲゼンマイを装備する。「ランゲ1・トゥールビヨン・パーペチュアルカレンダー」は自動巻き、キャリバーL082.1を搭載し、ランゲ1としての調和を保つためにリング状の月

表示を文字盤外周におき、リングが動き、文字盤下の矢印が月を示す機構が開発された。アウトサイズデイト表示を含むすべてのカレンダー表示とムーンフェイズは瞬時にジャンプして進む点も特徴だ。裏蓋側には特許を取得しているストップセコンド付きのトゥールビヨンを備える（この時計の詳細は後の号で紹介する予定です）。



1994年10月24日、復興第一号のコレクションを発表。そのひとつが「サクソニア」（手巻き、Cal.L941.3）だった。左からグンター・ブリュムラインさん、ウォルター・ランゲさん、ハルトムート・クノーテさん。

「サクソニア・ファミリー」の発展



サクソニア・アニュアルカレンダー
Cal.L085.1(2011年)



サクソニア
Cal.L941.1(2011年)



サクソニア・デュアルタイム
Cal.L086.2(2011年)



サクソニア・フラッハ
Cal.L093.1(2011年)



サクソニア・オートマティック
Cal.L086.1(2011年)



サクソニア・オートマティック・ジュエリー
Cal.L086.4(2012年)

「サクソニア」も「ランゲ1」同様に復活時にAランゲ&ゾーネの将来を背負って発表されたモデルだ。サクソニアとはグラスヒュッテが属するザクセン州から名付けられ、科学技術が栄えた土地の歴史へのオマージュでもあった。1994年に発表されたモデルはアウトサイズデイト表示を備えていた。その後、2007

年にファミリーのリニューアルが行われ、現在では、ダググラフ系とダブルスプリットを含む9つのモデルで構成される（55ページ参照）。ファミリーのベースとなる「サクソニア」は11年にリニューアルされ、6時位置にスモールセコンドを備える手巻き、キャリバーL941.1を搭載する。控えめなパーインデックスが

デザインの特徴となっている。同じ年に「サクソニア・オートマティック」も発表された。デザインはサクソニアを踏襲しているが、パーインデックスはわずかに長い。また新開発の薄型手巻きムーブメント、キャリバーL093.1を搭載する「サクソニア・フラッハ」は時分針のみの表示だが、Aランゲ&ゾーネ流の薄型ム

ーブメント開発が注目された。また、ふたつの時間帯を表示する「サクソニア・デュアルタイム」では現代的な実用性と機能性の追求がみられる。また今年の新作である、真珠母貝文字盤を備え、ケースにダイヤモンドをセットした「サクソニア・オートマティック・ジュエリー」は今日では唯一の女性用モデルとなっている。

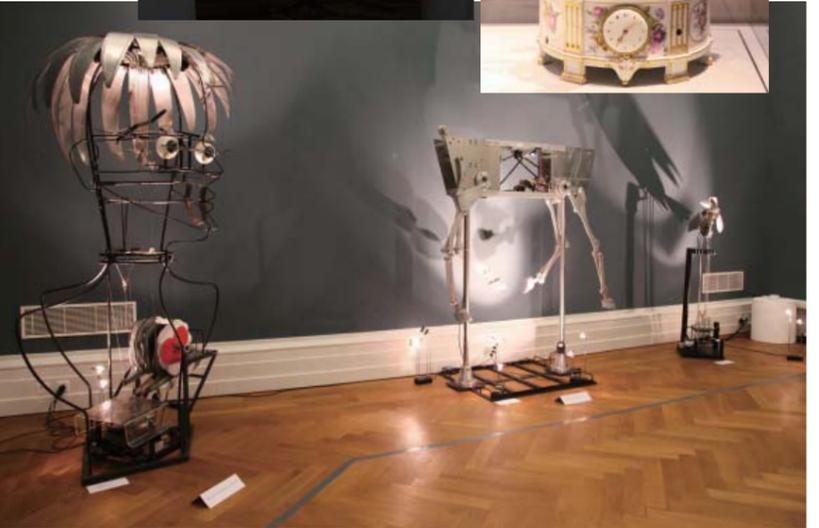
『オートマタと傑作品の数々』

ジャケ・ドロワの天才的な製作者たち

ヌシヤテル美術歴史博物館



ジュネーブ、ジュウ渓谷とともにスイスの時計産業を担うヌシヤテル州は、時計製造と伝統、遺産の保護に力を入れているが、その一環として『オートマタと傑作品の数々』が企画された。そしてこの地方が輩出したオートマトンの製作者といえ、18世紀に活躍したピエールジャケ・ドロワと息子アンリ・ルイジャケ・ドロワ、そして彼らを支えたジャン・フレデリック・レシヨウの名が挙がる。ラ・シヨウ・ド・フォン出身のジャケ・ドロワ親子は世界各国を旅して自らの作品の販売を行なうビジネスマンでもあった。彼らの作品のなかでもっとも有名な自動人形3体、すなわち「文筆家」「画家」「音楽家」は1774年にラ・シヨウ・ド・フォンで発表された後、ヨーロッパ各地で巡業公演を行い、1789年に売却。以後、ヨーロッパを転々とし、1906年にヌシヤテル歴史協会が購入し、修復が行われた。通常はヌシヤテル美術歴史博物館に3体が展示される。



ピエール・ジャケ・ドロワ（1721～1790）、アンリ・ルイ・ジャケ・ドロワ（1752～1791）親子、そして弟子のジャン・フレデリック・レシヨウが生み出したオートマトンやからくり時計は18世紀の科学や哲学にどのような役割を果たしたのか。彼らはラ・シヨウ・ド・フォン、ジュネーブ、ロンドン、パリからどのようにして世界各地へと作品を広めていったのか。そして彼らの作品は高級時計にどのような影響を与えたのか。また彼らの自動人形は現在、さらに未来のロボットにどのように関連づけられるのか。これらをテーマに過去のオートマトンから現代のロボットまでを年代を追って展示する。またジャケ・ドロワの3体の自動人形のうち、「文筆家」が展示される。

ル・ロツクル時計博物館

ラ・シヨウ・ド・フォン国際時計博物館



ル・ロツクル時計博物館（シャトー・デ・モン）はサンド財団のコレクションの展示で知られるが、そのなかにはシンギングバードやからくり時計が数多く含まれている。18世紀後半に機械式音楽機構が小型化されると、時計や鳥かご、ピストル、タバコ入れなどにシンギングバードやオルゴール、からくり機構を組み込んだものが作られるようになった。また機械仕掛けの小型動物なども作られ、それらは機構のみならず、エナメルや彫金、宝飾細工によって美しい装飾が施された点でも注目される。博物館の地下の展示場では「洗練された小型装飾」をテーマとして、18世紀から現代までの作品を見ることが出来る。またジャケ・ドロワの3体の自動人形のうち「画家」が展示される。



古代から現代まで、膨大な数の時計を計る道具を展示する博物館の1階が「驚きと感嘆」をテーマとした展示となっている。中国に向けて作られた巨大な像のペアのオートマトンにはじまり、音楽機構を備えたオートマトン、天文時計、惑星を表す天体オートマトンなど、過去の精密機械技術を示すダイナミックな作品が並ぶ。それぞれの時代の先端技術と技術者たちの発想の豊かさ、そして装飾工芸技術に感激するだろう。ジャケ・ドロワの3体の自動人形のひとつ、オルガンを弾く「音楽家」とともに並ぶのは現代のオートマトン製作で知られるフランソワ・ジュノー氏の作品で、トルコ・コーヒーを注ぎ、飲む様がリアルだ。こうしてオートマトン製造の技術は今日に受け継がれている。



芸術的な職人の技に敬意を表して

今日、時計装飾の伝統的な手法を将来に受け継ぐために、職人の手仕事による工芸を駆使した文字盤を製作する時計メーカーは少なくない。カルティエはその先鞭を切ったメゾンのひとつであり、今年の「カルティエ ダールコレクション」には新たな技法も加わった。

カルティエは1999年にパシヤの限定モデルでエナメル装飾を復活させたが、これは伝統的な工芸美を、腕時計をキャンパスにふたたび花開かせることへの意欲の第一歩であった。そして昨年には6種の芸術的な職人の技を用いた腕時計コレクション「カルティエ ダール」を発表。今年も7モデルから成るこのコレクションが登場した。ストーン モザイクはさまざまな石を敷き詰めることで、立体感のあるモチーフを作り出す技法であり、昨年の亀に続いて今年は馬がモチーフに選ばれた。今にも駆け出しそんな躍動感、優しさと気品を湛えた表情はおよそ120時間以上を要する緻密な作業の結果だ。

ストーン モチーフはまずゴールドのプレートにデッサンを彫り、彫りこんだ部分にカシロン（淡帯青白色のコモンオパール）のテッセラ（モザイクを構成する小さな角片）をセットする（写真1）。使われる石の種類は豊富で、ピクチャー ジャスパー、カラハリ ジャスパー、マ

ストーン モザイク



1



2



3



4



5



6

ダガスカルグレイ ジャスパー、ブラウン オアシディアン、ピンク オパールなどがあり(2)、それらの微小なテッセラ(3)が調和し、立体感や明るさを生み出す。石の色調は自然が生み出したもので、微妙にニュアンスが異なり、職人は調和を図りながら色調を合わせ(4)、小さなピンセットでテッセラをひとつひとつプレートの上にセットしていく(5)。テッセラをセットした後(6)、デッサンの周囲は金属の細い線で縁取られ、頸、たてがみ、鼻孔の細部は手彫りのゴールドの線で強調され、力強い表情が生まれる。

こうしてサントスのスクエア・ケースをフレームにストーン モザイクのアーチが時を刻み始める。ブルースチールの針はアーチを邪魔することなく、自然に溶け込んでいる。時計の文字盤という制約を克服し、完璧な美しさを希求する職人の、執念ともいえる集中力が生み出したアーチは時計の新たな装飾法として次の世代へと受け継がれていくことだろう。



サントス デュモン XL ホース モチーフ

手巻き、Cal.430MC（毎時2万1600振動。パワーリザーブ約40時間。18石）を縦47.4mm、横38.7mmの18Kホワイトゴールド・ケースに搭載する。

リュウズにファセットをつけたサファイアをセットする。

日常生活防水。価格118万8300円。

世界限定40個。